

きらめき



豊岡光生園開園記念

第26号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成23年10月1日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3
ケアホームCOCO

Tel 0439-67-3711

豊岡光生園 : 〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1
相談支援センター天羽

0439-68-1711

0439-68-1833

三芳光陽園 : 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園 : 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊ひかり学園 : 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

風と語りつづ



『いぬいちい代えて』

暦のうえでは秋とは言え、まだまだ厳しい残暑が続くものと思われます。

皆様におかれましては、健康には十分留意なさっていただきたく存じます。

東日本大震災から六ヶ月、被災地の復興が一日も早く成ることを祈るばかりでございます。

さて、当法人の中核施設であり、我が子たちの最初の生活の拠点であります豊岡光生園の改築・改造計画が理事会で承認され、平成二十五年度を目途に完成させることが決定されました。長年の悲願ともいふべき計画であります。

豊岡光生園は、築後三十年を経過し、建物及び設備面において、かなりの老朽化が進んでおります。居住性も年々低下の一途をたどっております。手塩にかけた施設を、今日的な住環境として再生して、今後の親亡き後の我が子たちの暮らしを保障するのが、親たちの願いであり、務めでありました。

くしくも、障害者自立支援法の廃止が決定され、新たに「障害者総合福祉法」制定に向けて様々な角度から議論がなされており、障害者権利条約も、そう遠くない時期に批准されるものと考えられます。

こうした歴史的に大きな変革の流れの中で、多くの方々のご支援を賜りながら、この計画を遂行できることは、まことに喜ばしいことと感謝せずにはおれません。

あらためて、多くの方々に御礼申し上げます。

いま現在の段階としては、九月中区に協議書を千葉県に提出する準備をじており、九月議会終了後には承認が得られるものと確信しております。工事にあたっては、豊岡光生園園舎の特徴である「人」文字の躯体は残しつつ、一部の園舎を取り壊し、この後地に第一期工事を実地し、その後、第二期、第三期工事を経て、管理棟とユニット形式の居住部を完成につなげたいと考えております。二十ヵ月をかけた工事になる予定であります。

いうまでもなく、東北大震災を経験し、世間を取り巻く大変厳しい現況であります。この時期を見逃すことはできません。親たちも高齢化し、すでに何人かは鬼籍に入っている

のが実情です。我が子たちも五十代を迎えております。一日も早く完成を見、責務を全うして、親子ともども喜びを分かち合いたいと思う次第でございます。

職員並びに関係者と一致団結し、困難な事業を成し遂げたいと努力して参りますので、

さらなるご指導、ご鞭撻のほどをよろしく願い申し上げます。

二十二年度の会計報告を記載いたしました。

社会福祉法人薄光会

理事長 山崎 照海

学園新聞



「ぼくらの水ぎわ節電術」

今年の夏は日本全国が節電モード。我々、福祉施設だって、例外ではありませんでした。ただ、

「節電もするけれど、やっぱり快適に過ごしたい！」

これがみんなの本音のはず。じゃあ、どうしたらいいか… この夏、利用者の皆さんと取組んだのは、“暑さしのぎの水ぎわ節電”。みんなで水ぎわへ出かけてみよう！

海へ、川へ、色々な“水ぎわ”へ出かけましたが、我々、職員側としては、移動中のバスの中がいちばん快適だったように感じられ… いえいえ、ともじさんのこのひと言に、水ぎわ節電の“本質”を感じましたよ！



清流での川遊び



夏は海！でも暑い…

「たくさん出かけられるからいいよ…」

節電の夏は利用者の皆さんにとっては決して

悪くない、いや、むしろ良い夏になったようですね。



水に入るのが一番涼しい！

ちなみに、湊ひかり学園では、7月の電力使用量は、前年比三割減を達成！ 結果オーライという事で… “水ぎわ節電”大成功！

(鈴 鹿)

「お片づけ屋のしんごさん」

しんごさんは、昼食の後の食器の片づけなど、率先してやってくれる「働き者」です。そんな「お片づけ大好き」な彼が今、いちばん気になっているのは、隣に座って、テーブルいっぱいブロックを並べ、遊んでいるまさるさんです。

休憩時間が終わり、活動が始まるうとしています。しんごさんはまさるさんが遊んでいるブロックを片付けたくて仕方がない様子。まさるさんにチラチラと視線を送っていますが、その視線をまさるさんも感じているようで、

(またお前か、放っておいてくれ！)

と言わんばかりに隣にいるしんごさんを払いのけるように両手で押しています。

二人のやり取りを見ていた私はまさるさんに、

「まさるさん、活動の時間だもの、片付けないかね。」

と声をかけました。すると、その声に反応し、今までまさるさんに押され続け、(まいったなあ)といった表情を浮かべていたしんごさんが、突然、立ち上がり、半ば強引にブロックを片づけ始めました。職員の「後押し」を得て？ しんごさんが強行策に出たのでしょうか。しかし、まさるさんも片づけられてなるものかと、必死の形相でブロックの箱を抱え込んでいます。

私の目にも、ふたりとも引くに引けない状況なんだろうと感じ取れましたが、その時、しんごさんが振り返り、私たち職員に(力をかけてよ！)と視線を送ってきました。

それを見ていた、私より“目づから”のある職員Sがひと言、

「お片づけですよっ！」

職員Sの“目づから”をいつも感じているまさるさんが少しひるみました。しんごさんはそれを見逃さず、(スキあり！)とばかりにブロックの箱をかすめ取ってしまったのです。

まさるさんのうらめしそうな視線など、しんごさんは全くもって意に返さず、立ち上がってブロックの箱を片づけてしまいました。「目的」が達成出来て、満足げなしんごさん。

(まさるさん、いい勝負だったけど、活動の時間だからね、分が悪いよ。)

(大 木)



『この夏の節電対策』



皆様、この夏の節電対策はいかがされていますでしょうか。クールビズ、グリーンカーテン、その他諸々。色々な工夫をされていることと思います。

社会福祉施設については、『電気の使用制限を行うことで、生活や健康の保持に大きな支障が生じうる利用者（例：人工呼吸器や酸素療法、たんの吸引等が必要な利用者、体温調整が困難な利用者）がいる施設』ということで、使用制限による電力の削減率は0%とされていますが、利用者の生活に十分配慮した上で、節電を心がけています。



利用者の中にも、率先してクールビズに取り組みられている方がおられます。

施設長が「骨折した肩が冷えて痛む」なんてこぼしているのをあざ笑うように、襟なしの半袖シャツで笑顔を振りまいていた御年九十五歳のハルさんと、アロハシャツの全国大会があれば、間違いなく上位にランクされるであろう程の着こなしで、お気に入りのアロハシャツと半ズボンで颯爽と過ごされている武美さんです。ちなみに、武美さんの本日のアロハは金魚の柄でした。（武美さんのリクエストに答え、これを探してきた職員のセンスに拍手を送りたいと思います）



この調子だと計画停電はなさそうですが、まだまだ暑い日が続きそうですね。皆様もお体に十分気をつけてお過ごしください。



『施設長のつぶやき』

（その一）

休み明けで食事介助に入った。
武雄さんが、介護職員に聞いていた。

「奥さん、来るんかい？」

（奥さんとは、加藤前園長の奥様、みどりさんのことです。）

「奥さん、すぐに来るよ」

「園長もいるんかい」

私は、『も』なのね。

所詮、おまけなのね。

（その二）

利用者が、怪我した肩の心配をしてくれる。

千春さんが、

「園長、どっちの肩、怪我したっけか？」と聞いてきた。

左が怪我した方で、

真ん中の頭が、毛がない方で、

右は怪我してないけど上がらない方

となりで、ミネさんが吹き出していた。
笑われないのも辛いけど、そんなに笑わなかったっていいじゃない……。



鴨川ひかり学園

ひかり通信

「ニューフェイス」



四月から新しく学園に仲間入りした水谷早由里さん。利用者さんの中で最年少の彼女は、みんなのかわいい妹的存在です。

彼女が登園し始めた頃は、学園に慣れていただけで、あれこれと好きそうなことを試しました。

民謡が好きと聞いていたので、流してみると…。

「あれっ？ あんまり楽しそうじゃないぞ！」と首をかしげる私たち職員。

じゃあ、絵を書くのはどうかな？ と色エンピツを持たせると…。

「ポトッ」と、すぐに落としてしまいました。興味がないのでしょうか。笑顔も見せてくれません。

そして、四か月後。

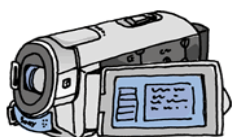
学園生活に、だいぶ慣れてきました。朝の挨拶に、ニコニコと笑顔を返してくれます。坂本九さんの「上を向いて歩こう」を聞くと、とても嬉しそうにしています。



彼女と鴨川ひかり学園の物語は、まだまだ始まったばかり。これから、たくさん経験やいろいろな活動を通して、興味のあること、得意なことを引き出していけたらと思っています。

池澤

「レンズの向こうには」



ひかり学園には利用者さんたちの様々な活動を記録するためのビデオカメラがあります。

今日も職員が利用者の方々をそのビデオカメラで撮影していると、Tさんが興味を示してきました。言葉がほとんどない彼ですが、誰にもそれと分かる身振り手振りで「俺にも貸してよ」とアピールしてきます。

簡単に使い方を教えてカメラを渡すと、すぐに周囲を撮影し始めました。その姿はさながらプロのビデオカメラマン。自分が興味を持ったものに対して徹底的にズームインしていきます。

ターゲットになったのはK職員（女性）。Tさんのお気に入りの職員でもあります。彼女の笑っている姿、仕事に取り組んでいる姿、動いてもピタリと液晶ファインダーに捕らえてはずしません。この時のTさんの目は、まさに真剣そのものでした。



この日撮影したビデオは、K職員のプロモーションビデオとなったのです。

白銀

COCO de COCO



熊谷さん居酒屋へ行く

えー、あけぼの荘の熊谷さんはビールが大好きなんで。週末になるとよくホームで晩酌するよう
で。

ある日の事、勤務の都合で職員が二人、あけぼ
の荘に入れたから、

「居酒屋へ飲みに行こう」

と声が出て。

庄司が熊谷さんを誘うと、

相好を崩して、そそくさと車へ小走りに。

居酒屋（美起）では、すでにできあがった近所

のおじさんが酒をなめるように飲んでいて。

緊張気味の熊谷さんは、借りてきた猫みたいにお
となしく。

それでも一杯飲み終えた頃にはキョロキョロし
ながら「あえー」と嬉しい声も出て。

できあがったおじさんも時折熊谷
さんをチラチラ。

おじさん、

（あの野郎はいったいなんだい…）

熊谷さん、

（こわがってんな… じいさんよ）



結局、お互いのからみは探り合い。お互いが意識
していたのは明らかで。シャイなおじさん同士な
んで。

二人のやり取りに心の中でくすり、くすり。
まあ、これからだろうな。時折居酒屋に出かけ、い
つしか2人が飲み友達になったらいいなあーと
ニシヤリ、ニシヤリ。

店を後にして。心地よい夜風に、ほろ酔い気分
てなわけで。へえ。

* * *

ちなみに、今度COCOの道博さんが近所の寿
司屋に飲みに出かけるとか…。

おー、やってきなあ。どーんとよお。



（庄司）

大奥？ 「ほのか」



ケアホームほのかに、鈴木葉子さんは暮し
ています。葉子さんは、とてもガツシリし
た体格をして、歩く姿は、ぼたんの花のよ
うです。他の利用者がリビングの周辺でくつろい
でいると、（葉子のお通りよ）と、のっしのっし
元気です。その道筋にいるときは、全員さつとよ
けます。

そんな葉子さんと、対決し
なければならぬときがあり
ます。食事で、大好物（餃子
や揚げ物、高力ロリー）を平
らげると「ギョロリ」と、皆
が食べている皿を一通り見渡
します。大事に取ってあるよ
うな食べ物を見つけると、目が鋭く獲物を狙う豹
に变身します。



うっかりすると、手づかみで取られてしまいま
す。でも、そんな葉子さんですが、とてもかわ
いく思うのは、眠りに入る前のベッドに横にな
った顔です。ウッフフと笑うのです。今日もゆ
っくり眠りにつけそうよと、彼女のささやきが
聞こえてきます。

* * *

（山村）

（よけいなことですが、
葉子さんは、昔はガラス
細工のような心持ちで、
ハラハラして見守ってい
たんですな。お嬢と呼ば
れていましたっけ。



この頃は、ソファーに社長座りして、声を出
して笑うんだから。心持ちはすこぶる「安定」
いや「安泰」ですかねえ。

テレビの前のソファーを志保里さんを取り合
って、お尻を先に着地させた方が勝ち。負ける
と食卓のイスで空くのを待ってたりして、ライ
バル心むき出しですよ。下手なことは言えない
んだけどね、「のどか」は女子寮のような感じな
んだけど、「ほのか」は、オバサンっていうか、
なんか「大奥」を連想しちゃうのよ…。

えっ。あー、びっくりしたあ。

何で女性職員、声を揃えて

「管理者！」

っていうの？

なんか悪いこと言ったかなあ。

とりあえず、あやまっとこーっと。ごめん。（管）



太陽のしずく

ぼく、将来の大物かも

今年の三月に学校を卒業して、四月から「おしごと」に通ってくるフレッシュマンの直人君。毎日ケアホームから依頼される洗濯物を洗い、干してたたみケアホームに収めるまでが直人君のしごとである。

直人君の趣味は草取りである。おしごとの合間に職員の目を盗んでは花壇の「草取り」に精を出してしまう。草取りをした人ならわかるだろう。あの感触、あの充実感、あの心の平穏を。

先日もついどうにも止まらなくなり、鳥居施設長が丹精込めた花を見るも無残に抜き取ってしまった。さあ大変。見つかって、直人君は花壇の前に呼び出された。一瞬たりとも視線をずらすことが許されぬ鳥居施設長の熱い眼差しを受けながら直人君も逃げなかった。頭をややたれてびくりとも目をそらさなかった。鳥居施設長は思った。

(いまだき、見所のあるやつだ、と。



しずくに一ヶ月程通った頃だった。

* * *

そのような経験を積んだある日のこと、外の角ハンガーに干したタオル大小合わせて五十枚程が乾いたので、取り込みを

お願いした。右手で一枚引く張る。パチンと洗濯バサミの音と同時にタオルが外れ左腕にかける。その音に快感を覚えたのか次から次へと外す。

今日の直人君はどうやら趣味を考えている暇などないようだ。両手いっぱいになった時、バサッと数枚のタオルが地面に落ちた。



「直人君。下見て」



職員の声かけに両手いっぱいタオルをギュッと握り占め下を向き、落ちていたタオルを拾う。しかし違うタオルがまた落ちた。それを何度も繰り返しているうちに、さすがの直人君も

「キーン」

という声で苛立ちが頂点に達したようだった。

しばらく黙って職員を見つめる直人君が、突然両手いっぱいタオル全部地面に置くと、どこかに向かった。

(しごと放棄か?)

すると洗濯場の中からカゴを持ってきて、地面に置いたタオルをカゴの中にまとめて入れた。

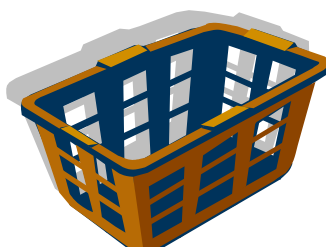
直人君のすばらしい「気づき」だった。

職員が、洗濯物ならぬ直人君を「たたみかける」。

「あゝあ。枯葉や砂がついちちゃったね。困ったね。」

直人君、(そんなの想定内

だよ)といわんばかりに、極めて沈着冷静に、右手の小指を立てながら、親指と人差し指で枯葉をつまみ取るのだった。



* * *

(M)

「最近、小さな妹たちにまとわりつかれて、背中に乗られても嫌がらず、じっとしてそのままさせているんですよ。お兄ちゃんなんですよ。」
ご両親の言葉である。



園だより

『人生の大先輩』



光生園の女性利用者の長老格、土本さんと吉野さんは、いわゆる「おばちゃん精神」満開の二人です。

世話好き、話好き・仕切り好き…、その力量たるや海千山千、日常の何気ないやり取りでも存在感は大いなのです。世の厳しさを生き抜いてきた自信でしょうか、女性相手にはいついっいつ口調が強くなるようです。でも、若い男性には、女心をくすぐられるのか、「ヨシさまあ」とばかり、夢中になって溶けてしまうのです。そこは大阪のおばちゃんと同じです。

そして二人は、情報収集力と情報伝達力もばっちり、職員や他の利用者の様子などが二人の話でよくわかるから、恐るべしです。

* * *

朝食を早々と済ませてしまったこの二人が、まだ食事中の人たちを尻目にテーブルの上のおかずや食器を次々と片付け始めました。

(相変わらずなんだから…)

女性職員は、穏やかでない気分を秘めながら、

「ねえ、片付け、待ってもらっていい？」

と声をかけました。

「すみません。まだ食べている人がいるので、片付けは待つて欲しいんですけど…」
声に苛立ちのトーンが帯び始めました。

それでも二人の片付けは、何か意図があるように続いています。無言で食器を自分たちの前に集め、目一杯手に持っています。

「他の人が食べているんです。片付けをやめてください。」

職員がついに厳しい口調になりました。土本さんの表情も険しくなりました。一触即発。

「いらぬものでしょう！ 何言ってるのよ。あんた！」土本さんがついに暴発。一瞬、食堂内の空気が止まりました。

事態を憂慮した若手の男性職員がすかさず駆け寄り、「土本さん、他の方がまだ食事しているみたいだけど…」と声をかけました。

すると、怒っていたはずの土本さんはこの若手男性職員の手を取ってさすりながら、「わかった、ごめんね、ごめんね」と、微笑んで、片付けをやめたのです。

二人の豹変ぶりに、女性職員はあきれ顔でしたが、ともかく一件落着…。

ところが、しばらくして二人の井戸端会議がきこえてきたのです。

『あの小娘は、私らを何だと思ってるの！』

『おんだら怒られてはっかりだなあ』

『そつだよ、私ら怒られてはっかり。私だって我慢してるのに！なんであんな小娘に怒られなきゃいけないの！』

「そつだなあ、あの小娘はいつも怒ってばあしだ！」

※「おんだら」とは「私たち」、「怒ってばあし」とは、「怒ってばかり」＝房州弁)

* * *

若い職員の生活経験ではとても及びもつかない人生の荒波を何度も越えてきたお二人です。ともすると一方通行の「指示言葉」が多くなっている現実、したたかに一石を投じ、猛省を促そうと仕掛けたのかもしれない。

そうなのです。私たち女性職員は、自覚すべきなのです。二人からすれば間違いなく、「小娘」なのですから。

(加藤)



【編集後記】

東日本大震災から六ヶ月。熱中症と節電の夏は、台風とともに過ぎ去り、早、秋の風が。

「復興」いまだ緒に就かず。が、草の根の人々の頑張り、なでしこジャパンの快挙は、おおいに日本の底力と「あきらめない」というねばりを内外に喧伝しました。新しい首相にも、この底力とねばりで日本を導いてほしいものです。ツクツクホーシ、カナナ

(法人広報委員会)